

萩市観光案内サイン整備計画作成支援業務仕様書（公募型プロポーザル）

○業務名 萩市観光案内サイン整備計画作成支援業務

○目的 萩市では、平成 17（2005）年の合併以前に旧萩市において観光案内サインの整備を行っているものの、それから約 20 年が経過し、サインの老朽化や時代の変化、ニーズの多様化等により、サインの更新や再整備が必要な時期を迎えている。

本市の観光案内サインは、合併以前の旧萩市から旧町村部まで広く設置されているが、本業務では第 1 次計画として旧萩市中心部を計画の対象地とし、老朽化し倒壊の恐れがある「大拠点案内板」「中拠点案内板」を中心に検討、計画作成を行うものである。

計画作成にあたっては、本市の主要構想である「萩まちじゅう博物館構想」に基づき、本市の景観や歴史・文化、これらを活かした観光、関連するまちづくり活動等を十分に考慮したものとする。

○業務対象区域

萩市全域を対象とするが、旧萩市中心部（旧萩城下町から松下村塾、萩反射炉までのエリア）を重点的な対象区域とする。

○業務期間 契約締結日から令和 9 年 2 月 26 日

○業務内容

（1）現況調査と課題の整理

計画範囲を中心に、大拠点および中拠点案内板の設置位置、掲載情報、サイズ等の調査と課題整理を行う。現況調査にあたっては、利用者動線、滞留ポイント、視線誘導などの把握・分析も行う。なお、各施設の入込者数等の統計資料については、可能な限り市が提供する。

（2）基本方針の検討

基本方針の検討にあたっては、萩市の地域性や歴史・文化に配慮するとともに、観光を取り巻く社会的なニーズやインバウンド対応といった点を考慮しつつ、現地における来訪者への情報提供と誘導を適切に行うことにより、満足度の向上を図れるよう検討する。

また、案内情報の取捨選択、観光導線、誘導ストーリー、既存サインの調整（スクラップ&ビルドや有効活用）などについても検討を行う。検討にあたっては、以下の点に留意する。

①関連計画やまちなみとの調和

萩市景観計画や文化財（重要伝統的建造物群保存地区、史跡等）、世界遺産との調和。

②萩まちじゅう博物館との連携

ゲートウェイ（観光案内所・道の駅等）、コア（萩・明倫学舎及び萩博物館）、各文化観光施設の関連強化の検討

③視認性・可読性

文字の読みやすさ、アイコン設計、多言語対応、色彩設計など多様なニーズへの対応。

④耐候性・メンテナンス性等

屋外サインの耐候性・耐久性やメンテナンス性の考慮。

⑤管理システム

サインを統一的に維持管理できるシステム（更新ルール、素材等の統一、管理台帳など）。

⑥実施可能性の検討

広域に多数分布する、「大・中拠点案内板（総合案内板）」「小拠点サイン（誘導サイン）」「解説サイン」の整備可能性や、段階的導入の検討。

⑦環境・持続可能性（未来志向型）への配慮

地元産材の活用や、「萩らしさとSDGsの両立」などを含めた持続可能性のある整備。

⑧運用・データ活用の可能性（未来志向型）

二次元コードの利用など、観光政策への還元、観光イベントや事業者の変化に応じた差し替え・更新可能な仕組みなど、機能性・汎用性の考慮。

（3）設置個所・配置計画の検討

上記の方針に基づき、案内サイン等の設置個所を検討し、全体配置案を提案する。

（4）案内サインの標準仕様の検討

設置する種別ごとの標準仕様（板面デザイン、形状、寸法、材質等）を検討し提案する。

（5）概算事業費の算出

上記（3）（4）で提案した標準仕様、設置個所を踏まえた撤去及び設置費用の概算事業費を算出する。

（6）事業スケジュールの検討

令和9年度からの整備実施を前提とした、中長期的な事業スケジュール（案）の検討を行う。

（7）サインデザイン検討会議支援（2回）

萩市が実施するサインデザインの検討会に当たって、サインデザイン案を3案程度作成する。

(8) 打合せ協議

打合せ協議は7回程度とし、その内2回程度は対面、5回程度はオンラインによる定期打合せとする。ただし、必要が生じた場合には適宜行うこととする。

(9) 報告書の作成

上記(1)～(8)を取りまとめた業務報告書を作成する。

○成果品

(1) 萩市観光案内サイン整備基本計画書(案) 2部

- ・案内サイン標準仕様書及び標準図(平面図、立面図、断面図、盤面レイアウト図)
- ・概算事業費内訳書

(2) 上記(1)の電子データ(CD-R) 1部